

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

特定非営利活動法人 Creer 特集

vol. 68
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン

一歩一歩、歩いてきた
そしてこれからも



Editor's note 編集後記

一歩一歩を踏みしめる旅でした。

今回の取材を通して感じた可能性。ただひたすらに信じて行動することの強さを垣間見たように思います。メンバー1人ひとりが役割と責任をもち、自信をもって毎日を生きている。そんな彼らの在り方に、襟を正さずにはいられませんでした。もっと書きたいことが沢山あって、本文中に収まりきらなかったというのが正直な感想です。信念を持って活躍し続けるクレールさん、歩み続けていくその道の先に広がる景色を、ぜひ皆さんで見届けていただきたいです。

ー 長谷川 (構成/写真)

取材を行い、活動の先にある目的を知ることで、『仕事』への想いの深さを感じました。本当の意味での『自立』。その在り方を考えさせられ、今回の紙面のイメージにしたいと思い、冊子の中にはメンバーの方それぞれが真摯に仕事を全うしている姿を散りばめました。新たな『自立』への向き合い方を模索しながら、目指す社会へ向かって確実な一歩を歩んでいるクレールさん。その一人ひとりの姿を、ずっと応援したいと思います。

ー 神倉 (デザイン)

NEXT ISSUE 次回予告 2019年3月配布予定。次回の旅も是非お楽しみ下さい。

 とくしま市ほせンター TOKUSHIMA NPO CENTER

発行月 2019年2月
号数 68号
発行 徳島市市民活力開発センター
〒770-0847 徳島県徳島市幸町3丁目71番地の1 幸町会館1階
[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp
[WEB] www.tokushima-shikatsu.com



↑カレーを食す 長谷川



↑親子丼を食す 神倉

ABOUT PASSPORT.

“PASSPORT.” それは皆さんを特別な旅へとお連れするチケット。行く先に広がるのは、団体の活動や人の想いに溢れた景色。見て、感じて、もっと知りたくなる。そんなきっかけをつなぐソーシャルマガジン。これを手にする皆様に、どうか素敵な出会いがありますように。

See you next time.

この広報誌に関するご意見、ご感想は発行元である徳島市市民活力開発センター(088-611-3886)までご連絡下さい。

 とくしま市ほせンター



笑顔いっぱいの長江さん（メンバー）



保冷販売車



ずらりと並んだお弁当箱に
次々とおかずが詰められていく

朝礼でその日の動きを確認

クレエールの日常

「おはようございます！」

部屋に響いた気持ちのいい挨拶。

クレエールの一日はここから始まる。

朝礼を終えたメンバーはすぐさま散開し、各々の持ち場に着く。

調理をする人、お弁当におかずを詰める人、注文を受ける人、事務を担当する人、それぞれの役割に没頭していた。驚くべきはその手際の良さと真剣さ。ものの数十分でお弁当の隙間が埋まっていく。注文の電話が次々に鳴り響き、受けた注文を速やかに厨房へと伝える。その洗練された動きとチームワークに、圧倒されるばかりであった。

設立当初は2食のお弁当注文からスタートだったという。それが今では1日300食を超えて製造・配達をするほどに成長した。徳島県庁や徳島県警、徳島市役所、その他市内の事業所など、地産の食材を活かしたお弁当が顧客のニーズを捉えた。

お弁当が出来上がると、配達担当がただちに配達先ごとに仕分けをして出発する。両手の籠いっぱいに入ったお弁当を、1つ1つ丁寧に配っていく。そして配達を終えればまた作業所にもどり、ランチの調理や翌日の仕込みに入る。

これほどの業務を抱えながら、作業に追われているという様子は一切なく、彼らからはどことなく誇らしげな表情が見てとれる。自分の仕事に自信をもって、そんな感じだろうか。皆が責任をもって役割を担っている、そんな「仕事」との向き合い方が彼らの在り様に深く結びついているようだった。

Creer（クレエール）とは？

スペイン語で“信じる”という意味。

障がいのある人（身体・知的・精神・難病）の可能性を信じ、就労の場としてお弁当製造販売を中心にレストランを運営するほか、IT、縫製、手工芸、芸術、スポーツ活動、地域交流事業などに取り組む。社会の障がいのある人に対する理解が深まるようにすると共に、障がいのある人が自立し、意欲的に生き生きと充実感を持って暮らせるよう、福祉の増進と共生の社会の発展に寄与することを目的としている。

- 〔 名 称 〕 特定非営利活動法人 Creer（クレエール）
- 〔 住 所 〕 徳島市昭和町3丁目35-1（徳島県労働福祉会館1F）
- 〔 T E L 〕 088-654-5205
- 〔 F A X 〕 088-677-5206
- 〔 M A I L 〕 creer5205@gmail.com
- 〔 定 休 日 〕 土曜日 / 日曜 / 祝日
- 〔 営 業 時 間 〕 8:00～16:00
- 〔 ランチ営業 〕 11:30～14:00



H P



M A P



サンドイッチ 250 円



日替わり弁当おかずパック 400 円



ランチメニュー ハンバーグ定食 600 円

全てが繋がった瞬間

NPO法人クレール設立のきっかけとなったのは、**※**細川佳代子さんの講演だったという。その講演の内容は、集まった社長達へ障がい者雇用を訴えかけるものだった。

前理事長である喜多條さんはこのとき、細川さんからとある一言を投げかけられた。「あなたは一体明日から何をしたいだけなんですか？何ができるんですか？」と。その剣幕と想いの強さに圧倒されつつも、気付けば「私はみんなが働ける場所をつくります！」と答えていたそうだ。

喜多條さんにはもともと思い悩んでいたことがあった。それは障がいをもった人達の働く場所がないこと、働く場所があったとしても得られる賃金は驚くほど少ないということだ。なら私がつくればいいのだと、細川さんの言葉に後押しされて実行するに至ったのだという。高校から続けていたボランティア活動で得た繋がり、NPO法人スペシャルオリンピックスの事務局ボランティアで培った知識や経験、前職で得たPC技術など、これまで得てきたものの全てがNPO法人クレール誕生の糧となった。「あのとき、やろうと決めたその瞬間に全てが繋がった気がしたんです。」

※ 細川佳代子・・・認定NPO法人スペシャルオリンピックス名誉会長

Creer History

理事
喜多條 雅子

理事長
原田 昭仁

メンバー
長江 知里



お金のやりとりはその場限り、正確に

注文の電話を正確にさばっていく

楽しい仕事にする極意

クレールでは平均月給を10万円にすることを目標に掲げている。喜多條さんはこれまでたくさん親御さんと接してきたなかで、いつまでも擁護されている状況では親御さんが本当の意味で安心することはできないことを悟った。

「障がいのある子ども達が自立して、親から離れて、自分で稼いで、自分で管理もできて、親御さんにもプレゼントを買えたり、旅行も自分のお金で行けたり、そういう生活に変えて行かないと。」

また、理事長である原田さんは「仕事は渡してするのではなく、自分で探した仕事をするのがいい。与えられたものではなく、自分で見つけた仕事をするのが一番のびるし、楽しみなができる。」と語る。調理師を目指したいとか、お菓子を焼くのが好きだったり、接客が好きなど、洗い物をずっとした人など、それぞれが自分達の特性を活かせる働き方をしているそうだ。「今はもうほとんど職員が手を出さずに、自分達でできています。実際メンバーのみなさんの力がなければ成り立たないですね。今の成果もメンバーのみんなの努力あってこそです。」

自立すること

クレールの看板娘こと長江さん、お客さんと接することが好きだという彼女はいつも満開の笑顔で出迎えてくれる。仕事に楽しいと彼女は口にし、「頑張ったらその分認めてくれるし、また次はもっと頑張ろうって思える。それにお客様の要望を叶えて、喜んでくれたりするんがすごく嬉しいです。」と言葉を続けた。彼女だけではない、他のメンバーもまた、やりがいや誇りを持つて働いているようだった。認められ、適切な対価を受け取り、自ら稼いだお金で旅行に行ったり、プレゼントを買ったりできる。自分の意思で働き、遊び、生きている。私がクレールのメンバーから感じた自信の正体は、そんな「自立した彼らの在り方そのもの」だったのだろう。



11月生まれのメンバーとサポートして下さる会員の誕生祝



地域の清掃活動



小学校の交流授業で新喜劇公園

みんなの笑顔をつなぐ クレエール子ども食堂

2019年、NPO法人クレエールは新たなステップへと踏み出す。その1つが「みんなの笑顔をつなぐクレエール子ども食堂」だ。

近年、共働きや長時間労働、地域コミュニティの希薄化などが子育ての環境において課題となっている。一方で、社会的に孤立してしまう地域の高齢者の数も増加しているという現状がある。それらの課題解決に寄与する取り組みがこの子ども食堂だ。子どもはまちの「宝」であり、健やかに幸せに、希望に満ちて成長してもらいたい。そのための居場所をつくり、地域の人みんなで囲んで見守っていく。地産の手作りの食事を食べたり、遊んだり、学習したり、安心して過ごせる場所を創るのだという。

これまでにない協働の形

昨年、徳島市は新たな協働事業の形としてクラウドファンディングコース（上限200万円）を展開した。この制度では「ふるさと納税」を活用したクラウドファンディングを実施し、集まった寄附金で財源を賄う。

従来よりも補助率が高く、クラウドファンディングを通じてより多くの団体に活動を周知することができるようになっているのだ。また、クラウドファンディングに関わる事務手続きについては徳島市が担うことになっており、NPO側に掛かる負担が軽減されるようになっていく。

踏み出した新たな一歩

「これまで寄附だったり働く場を提供してもらったりと、支援してもらっていた立場であった障がいのある人達が、逆に社会貢献事業をしようという新しいステップを踏み出したんです。」

喜多條さんのこの言葉が、とても印象的だった。クレエール設立から11年が経ち、その間にメンバーは調理や販売、配達技術を磨き、立派に仕事ができるように成長をした。プライベートを充実させられるほどに経済的な自立も進んできた。

そんな彼らが地域社会に貢献し、地域の課題を解決するための新たな一歩を踏み出そうというのだ。誰かの役にたっているという喜びが、毎日をさらに生き生きとしたものにしてくれる。「子ども食堂がみんなの憩いの場になってほしい。子どもが帰りに普通に覗いてよつていけるような気安い場所、食堂みたいなイメージですね。」と話するのは理事長の原田さん。子ども達や地域の人々、クレエールのみんなが幸せになれる方法を探す。そのために今後は子ども食堂だけではなく更なる事業の拡大を図っていく予定だ。既に、万代町の空き倉庫を活用した飲食店営業や、音楽演奏や演劇などのイベントを行うという企画が始まっており、「おもしろそうやろ（笑）」と原田さんは無邪気な笑みを浮かべる。

※ 協働事業… 徳島市では行政とNPO・企業・学校・地域団体など多様な主体が連携して地域課題の解決にあたる「協働によるまちづくり」を推進している。
※ インクルーシブな社会… 誰もが共存可能な暮らしやすいやさしい社会。

Welcome!

子ども食堂

【開催期間】

2019年5月～2020年3月末まで

【開催日時】

● 平日

13:00～15:00

就学前の小さいお子さんに昼食やおやつを提供

15:00～18:00

学習や居場所、夕食を提供

● 土曜日（月一回）

食事以外に、コンサートや創作活動、スポーツ、クリスマスパーティーなどを月替わりで行う



市役所職員とのミーティング。熱心な議論が交わされ協働に結びついていく。